



## 地域医療を支える病院での役割づくり

雲南市立病院 診療看護師 木村千尋

コロナで大変な年明けとなりましたが、皆さまいかがお過ごしでしょうか？この未曾有の困難の中での地域医療振興協会の皆さまの多大な貢献に敬意を表します。今回は昨年JADECOM-NDC特定行為研修を終え、島根県雲南市に戻ってからの私の活動について書かせていただきます。私は2000年より米国で看護師、高齢者ナースプラクティショナーとして働いた後、2016年に帰国。その後、雲南市立病院の訪問看護ステーションで勤務、2020年3月に特定行為研修の修了とともに日本の診療看護師(以下、NP)の認定を受け、現在は診療看護師として雲南市立病院で活動しています。

私の住む島根県雲南市は、県東部の松江市・出雲市と三角形を結ぶ中山間地域に位置し、お蕎麦と温泉が素晴らしいだけでなく、古事記にも描かれた古い言い伝えのある神社や土地、お神楽などが今でも生活の中に息づく地域です。雲南市立病院は、そのような雲南圏域(人口約57,000人、高齢化率36%)にある地域中核病院で、プライマリ・ケアからある程度までの専門医療、在宅医療や終末期医療まで、幅広い医療を地域の医療ニーズに寄り添って行い、地域の健康に貢献することを活動理念としています。

昨年、7月からNPとして看護部所属、地域ケア科(総合診療科)配属になりました。活動開始前にはニーズを探るため、当院の管理者層や医師にヒアリングを行い、地域ケア科部長が看護職にインタビューを行いました。その結果、看護師と医師の間に入り、急性症状に素早く対応、必要なコンサルテーションを行うことで

シームレスなケアを目指すこと、外来看護、退院支援や訪問看護、診療所看護を通して、在宅医療・地域連携を推進すること、またベッドサイドで看護師と一緒にアセスメントや勉強会などを通して看護教育に貢献すること等がニーズとして挙げられました。また、これはとても重要なことですが、「今ある看護のあり方、病棟ごとの風土や関係性を理解し、尊重することが一緒に活動する上で欠かせない」という考えが看護職より示されました。これらを受け、まず各病棟の看護業務に入り、病棟の組織的特徴や業務の流れ、職員の思いなどを知るとも貴重な機会をいただきました。

私の一日は、地域ケア科の朝ラウンドとミーティング(問題のある患者や新患の診療プランの見直し)で始まります。その後、病棟と外来の朝カンファで情報共有します。午前中は内科外来初診で初診患者アセスメント・検査代行入力を行います。私にとってはトリアージと臨床推論の力を養う絶好の機会ですが、症状のある患者に早く対応できるようになったとの評価もあり、今後は在宅と外来、入院時のケアの継続性を高めることが課題です。また、健康診断の二次検査を地域住民の健康増進の窓口として捉え、精密検査だけでなく、ほかの健康問題がないか問診し、保健推進課と連携して各種相談サービス等へつなげます。午後は、担当する地域包括ケア病棟、回復期リハ病棟を回診し、総合アセスメントを行います。退院後の生活がより健康で安心なものとなるよう薬剤調整や生活方法などを通じた疾患管理をご本人や多職種と

考え、ケア調整、患者・家族教育を適宜行います。退院支援看護師やケアマネージャーからは、この地域の特色も含め、多くのことを教わっています。また、一日を通して病棟相談を受け付けています。全病棟に「困った、何かおかしいと思う時はぜひ呼んでください」と周知しており、穿刺困難、呼吸器設定の調整から発熱や意識障害までさまざまな症例(3~4件/日)に呼ばれます。相談症例の約40%は何らかの処方や検査を必要としており、早期介入による合併症予防として機能している可能性があります。特定行為を駆使できると同時に、看護師と一緒に対応することで「臨床推論を使うとケアってもっと面白い!」と思ってもらえたら、という願いを込めて行っています。その他、退院後訪問、診療所や近隣のグループホーム連携訪問も始まり、これら地域医療に関する活動は今後も増えてゆく予定です。住民の皆さん一人ひとりに、どうしたら質の高い医療ケアを継続して提供できるか、試行錯誤しています。一日の終わりは振り返りミーティングです。指導医、研修医等と、問診でとるべき情報、見逃したくない所見、鑑別のあげ方や画像の見方、さらには最新エビデンスに基づく診療などについて話し合います。情報量が多すぎて時に頭痛を起しますが、本当に学びの多い、そして楽しいスタイ



特定行為研修生と

ルです。月に1回は上司である看護部長と診療科長と面談をして活動上の問題や方法の調整をしますが、これが大きなメンタルサポートとなっています。その他、志を同じくする院内・院外の医療者仲間とおしゃべり、週末のオンライン会議を許してくれる家族の協力も私の活動の原動力です。

JADECOM- NDC研修を含め、多くの人々のサポートでこのような活動ができることに感謝の念に堪えません。今後は、皆さまと一緒に看護の能力と領域を広げていきたいですね!そして何よりも、私を受け入れてくださった雲南の方々、またチームメートである看護師や医師、その他関係者の方々と毎日楽しく活動してゆきたいと思います。